

# 「辺野古承認は困難」

## 軟弱地盤工事 沖縄知事が回答

沖縄県の玉城デニー知事は27日、米軍普天間飛行場（辺野古市）の移設先となる名護市辺野古沖の軟弱地盤改良工事の設計変更に関する政府の承認勧告に対し「期限までの承認は困難」

と文書で回答した。勧告は19日付で、27日が回答期限だった。斉藤鉄夫国土交通相は、より強く承認を求め「指示」に切り替え、知事に代わり承認する「代執行」の手続きを進める方

針。

知事は27日午前、「県民や行政法学者から、さまざまな意見が寄せられている。県政の安定的な運営を図る上で意見の分析を行う必要がある」と記者団に説明した。この日までの判断は困難だとして、判断を先送りした形だ。松野博一官房長官は27日午後の会見で今後の対応を問われ「国交相が対応する。コメントは差し控えたい」と述べた。勧告は代執行に向けた最初の段階で、4日の最高裁判決で承認義務を負った知事が対応しないため、斉藤国交相が手続きを取った。県の回答文書は28日にも国交省に届く予定。同省は近く承認指示を発出する。期限を10月上旬とし、知事が応じない場合は福岡高裁那覇支部に提訴する見通し。政府が勝訴し、判決が定めた期間内に知事が承認しなければ、国交相が代わって承認し、工事に着手できる。